



## 木もれびの森の外来種植物 (6)

### オオイヌノフグリ

春1番にコバルト色の花を咲かせるオオイヌノフグリ。可愛いくて群生して咲いている様は見事です。こもれびの森でもたくさん見られますね。この花を見ると春の訪れが近いことを感じ、顔がほころんできます。

このオオイヌノフグリも外来種なんですね。西アジア、中近東の原産で、ヨーロッパを始め世界中に帰化しています。1880年ごろに東京で見いだされ短期間に全国に帰化しました。

この可憐な花につけられたなんとも無粋な名前は在来種の**イヌノフグリ**から来ています。この果実が犬の陰嚢に似ているという理由です。明治になってオオイヌノフグリが渡来した時に、花が**イヌノフグリ**より大きいのでオオイヌノフグリという名がついたということです。オオイヌノフグリの果実はハート型ですが、まだ見たことがないので来年は気をつけてみてみたいと思います。

ちなみに、本家**イヌノフグリ**は近年生育地を奪われつつあり、環境省によって絶滅危惧種に指定されているとか。どこで見られるのでしょうか？(伊藤)



オオイヌノフグリ



オオイヌノフグリの果実



イヌノフグリ

## 木もれびの森の樹木

### スイカズラ(スイカズラ科スイカズラ属)

スイカズラが花盛りの季節になりました。蔓性植物の特徴そのままに、樹木に覆いかぶさるように咲き乱れています。花の根元を口に含んで吸うとほんのりと蜜の甘さだそうです。英語名の honeysuckle はまさに文字通り「蜜吸い」です。はじめに白色の花が咲き、やがて黄色に変わるので黄色と白色の花が入り乱れて咲きます。美しいですね。二つ並んで咲くのも特徴的です。「きんぎんか金銀花」とも呼ばれるゆえんです。

冬に葉が落ちないから忍冬(ニンドウ)とも呼ばれます。きれいな名前をもらって、幸せなことですね。これに比べ





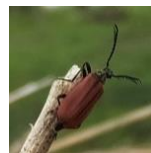
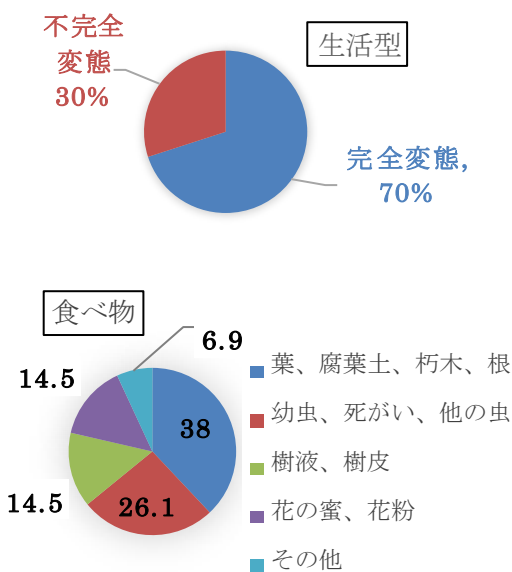
ると、ヘクソカズラやハキダメギクなどは本当に不遇です。さらに、スイカズラは民間薬としても、あるいは漢方の生薬にも使われるそうで何ともいいこと尽くしです。また忍冬酒は健康増進の妙薬として家康が愛飲したと伝えられています。多くの子孫に恵まれ、徳川270年の歴史を築いた陰には、スイカズラも一役買っていたのかもしれませんが、しかし、ところ変われば北アメリカでは「スイカズラとキリとクズを日本に持ち帰ってくれ」と言われるほどのはびこりようだとか。わが国でのセイタカアワダチソウの逆バージョンになっ

ているそうです。そういえば、高速道路の分離帯にスイカズラが覆いかぶさって無数の金銀花を咲かせていました。あまりはびこりすぎると嫌われ者になってしまうかもしれませんね。(鳥飼)

### 木もれびの森の森の虫たち (14)

この時期の虫たちの形態は、卵、幼虫、新生成虫、越冬成虫など多様な姿を見せてくれます。これから益々繁殖行動をはじめ活発に活動していきませんが、地球温暖化など地球規模で変動している事象の影響が木もれびの森にもあるのか、今までと違うことがないか皆さんも注意して観察してみてください。

ある昆虫図鑑に記載されている虫たち318種について、分析した結果を参考までに紹介します。この結果が全体の姿ではありませんが、如何に、相互に依存しあって棲み分け、共存しているかを垣間見ることができると思います。(海野)



アカハネムシ



ハナムグリ



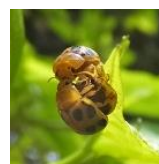
羽がボロボロ



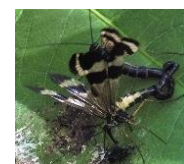
クモの子



なんかの卵塊



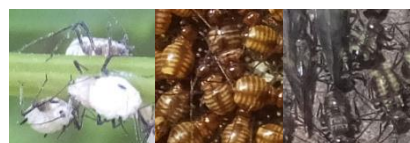
三つ巴?



シリアゲムシの交尾



ハムシの交尾



アブラムシ各種



キアシドクガ倉庫に大発生